

第5学年 社会科学習指導案

- 1、単元・教材名 大単元 わたしたちの食生活と食料生産
 中単元 水産業のさかんな地域
 小単元 魚はどこから

2、指導目標

○【理解】日本の水産業について、水産物の漁獲量や主な漁港、漁場などの分布、従事している人々の工夫や努力を取り上げ、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを理解できるようにする。

○【関心】日本の水産業が、従事している人々の様々な工夫や努力によって発展していることや、そのことによって国民生活の維持と向上が図られていることに関心をもつようにする

○【態度】日本の水産業に関する学習を通して、社会的事象を具体的に調査し、地図、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味について考えることができるようにする。

3、指導計画（全8時間）

- 第1次 魚はどこから 1時間（本時）
 第2次 八戸市の水産業 3時間
 第3次 明石市の漁業 2時間
 第4次 これからの水産業 2時間

4、ICT活用のポイント

授業場所	教室
授業形態	<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 個別学習 <input type="checkbox"/> 補習
ICTを活用する場面	導入 <input type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ その他
ICTを主に活用する者	<input type="checkbox"/> 教員 <input type="checkbox"/> 学習者 その他
ICTを活用する目的	課題の提示 動機付け <input type="checkbox"/> 教員の説明資料 繰り返しによる定着 モデルの提示 体験の想起 比較 <input type="checkbox"/> 振り返り その他（ ）
活用するICT	パソコン OHC プロジェクター スクリーン

5、セールスポイント

- ・地図や写真を大きくスクリーンに投影することにより、児童の視線を一つに集め、説明の徹底を図ったり、児童にとって考えやすくしたりできる。
- ・資料を徐々に見せていくことにより、よりわかりやすく、考えやすくできる。
- ・プリントの答え合わせなど、確認をしながらきちんとできる。

6、教材

自作・既存

7、本時の目標

- ・自分たちが食べている魚について問題意識を持ち、水産業に興味を持つ。
- ・日本近海が海流や大陸だななどの影響により好漁場になっていることや、主な漁港の分布や水揚げ量の多い漁港についてとらえることができる。

8、本時の展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>私たちが食べている魚は、どこでとれたのだろうか。</p>	
<p>1、知っている魚の名前や、食べたことのある魚について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none">・いわし、いか、さば、かつお、ほたてまぐろ、たら、さんま・・・・漁獲量と水あげ量について知る。 <p>2、水あげ量の多い漁港は、どこかを資料から読み取り、理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・生鮮魚と冷凍魚・焼津、銚子、石巻、八戸、釧路・・・・太平洋側に多い	<ul style="list-style-type: none">・日本地図を前に掲げておく。・できるだけたくさんの魚の名前を想起させる。魚の写真を見せる。 <div data-bbox="772 1203 1181 1367" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>(ICT①) 日本の白地図を投影し、魚の写真を貼っていく。</p></div> <ul style="list-style-type: none">・漁獲量と水あげ量の違いを説明する。 <div data-bbox="784 1499 1192 1702" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>〈ICT②〉 水あげ量の多い漁港ベスト10を①の白地図に重ねて投影していく。</p></div>

どうして日本は、水産業がさかんなのだろう。

3、海流（暖流、寒流）によって、日本の周りは好漁場となっていることを知る。

- ・暖流（千島海流、黒潮）と寒流（リマン海流、親潮）
- ・潮目

4、大陸だなの図を見て、日本の周りは好漁場であることを知る。

5、本時の学習のまとめをする。
ワークシートに資料を見ながら書き込む。
正解を確認する。

(ICT③)

日本のまわりの海流の様子を表した地図を②に重ねて投影する。

- ・暖流、寒流、潮目を説明する。

(ICT④)

暖流、寒流、潮目を説明する図を投影する。

(ICT⑤)

大陸だなの図を投影し、説明する。

- ・同時に、掛け地図でも大陸だなのを確認する。

- ・児童に発表させ、同時にパソコンでプレゼン風に正解を示しながら、確認させる。

(ICT⑥)

ワークシートの正解を順番に映し出す。